

アートレビュー

日本美術：軽量にサブライム

By ROBERT Mc DONALD

サンディエゴ-日本美術

今日、はその1つです

決まり文句が言うように、崇高なものからばかげたものまで、広範囲にわたる善意の展示会。一方で、それは日本の洗練された感覚が何かに残っていることを示しています。

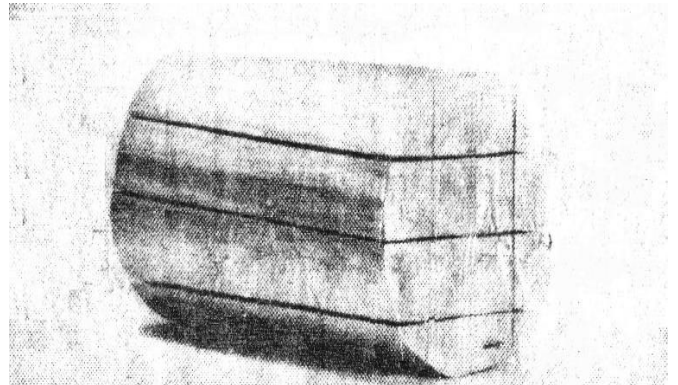
西洋人を鼓舞する。他方、それは日本人が私たちと同じように彼らの芸術において愚かであることができることを示しています。カリフォルニア大学サンディエゴ校のマデビルギャラリーでの6人の日本人アーティストの作品の展示は、同大学の25周年記念と国際関係太平洋研究大学院の発足と同時に行われます。キュレーターのブレント・リッグスが展覧会を主催し、サンディエゴを拠点とするアーティスト、マー・ガレット・ホンダの協力を得て、紹介エッセイを書きました。

それが最も異星人であるために最も興味をそそられるのは、私たちが最も本物で神秘的な日本人であると想定しているのは、伝統的な天然素材である木を使用する角永和夫の作品です。さまざまな単純な手と複雑な技術プロセスで、彼は選択した木の手足と幹を変更します。比喩的に示唆に富む「Wood No.7A」(1976年)では、10本の枝のそれぞれの一方の端を窯で互いに平行に焼き、もう一方の端を自然な状態のまま炭になるまで焼きました。「Wood No.5 W」(1978年)は、彼がベニヤ製造機で紙を薄くスライスし、組み立てた長さの杉(約1フィート×6フィート)です。H

「Wood No.12 D」(1981)の表面を微妙に彫り、「Wood No.11 R」(1982)を格子状に分割し、大きな壁である「Wood No.10 F」(1981)の側面を塗装した。ピース(242 x 9フィート)、黒色の顔料。角永の作品の表面的なシンプルさは、彼らの詩と存在感を裏切っています。

ショーで最も美しい作品は、伝統的なモダニズムの意味で、破れた雑誌のページの写真再制作を白い紙のフィールドに転送する吉田克郎のコラージュです。彼はアクリル絵の具を絵画的に追加して変更します。直線と不規則の両方のグラフィットラインは、欠落しているものを示します。抽象的ではありますが、ファンや着物を連想させる作品もあります。

白髪一雄は、スタジオの天井にある梁に取り付けられたロープからスイングしながら、30年以上足で絵を描いてきました。「ペダル絵画」と呼んでもいいですか? 創造過程での彼の全身の使用は、パフォー



マンスアートにおける彼の初期の活動に関連しています。

カタログエッセイが適切に指摘しているように、この技法は、手持ちの道具を使用したジャクソンポロックのアクションペインティングや、他の人の行動を指揮したフランス人アーティストのイヴクラインのボディペインティングとは異なります。(日本語の簡単なビデオテープは、アーティストの手順を文書化しています。ちなみに、彼は手持ちの道具と足を使用していることを示しています。)結果は、オリエンタルな味わいの古風な抽象表現主義の作品です。それは日本の美学に強く影響を受けた西洋人によって描かれたのかもしれませんが、彼らは彼らの実行に入った活力の感覚を伝えますが、彼らは視覚的な興味を長く持続させないであろう高い装飾の品質を持っています。12対照的に、草間彌生と間島領一の作品は軽量です。草間彌生は、水玉模様のひょうたんのような形をした箱や陶器の形を見せています。彼女はまた、陰茎の形で満たされたキラキラで覆われた女性の靴を示しています。(ニューヨークのアーティスト、ロンダ・ツヴィリンガーも同様の作品をより権威を持って制作しています。)彼女のパフォーマンス作品の紹介としては、ギャラリーでの合計60本のうち約5分のビデオテープで十分です。間島は、現代の生命テープカセット、薬瓶、そのようなものからの遺物をプラスチックで凍結します。彼女の「Let Us Talk No. 43, Pee Company」(1985年)では、4人のミニチュア白人(おそらくアメリカ人)の男性が、吠える犬の音で壁に向かって自分自身を和らげています。

しかし、最後に、山海塾ダンスグループによる13間のビデオテープ「Trip Into the Interior」は、グロテスクで不連続な一連のエピソードを通して、アメリカであり、中毒性があります。パフォーマーの1人である滑川五郎は6月20日7時30分に発表予定の場所で公演を行う予定です。

展示会は6月22日まで続きます。